



## 探針

## 「お上」に頼っているうちはバイオベンチャーは出てこない

黒川 清

「日本にバイオベンチャーを増やそう」という声を聞くけれど、ヒエラルキー社会がこれだけ確固として出来上がった日本で、ベンチャーを作るのは簡単ではない。

一流大学の卒業生がどこへ就職したがるかを考えればいい。成績が優秀な者から順に、官僚、銀行、財閥系企業といったヒエラルキーが出来ている。日本でエスタブリッシュメントと言われるのは、そういうコースを歩んだ人たち。そしてヒエラルキーの中のどこに入れようか、とやっているのが日本の教育だ。

ベンチャーを作ろうと思ったら、このヒエラルキーの中から飛び出す必要がある。でもそんなことをやったら「バカだ」と言われるだけだし、エリートたちは決してそんなことをしないように教育されてきた。それが日本人の価値観だ。

もちろん日本にもベンチャー企業家はいる。本田技研工業を作った本田宗一郎さん、京セラを作った稲盛和夫さん、ヤマト運輸の小倉昌男さん。みんなヒエラルキー社会の中ではエスタブリッシュメントに入れなかった人たち。そういう人たちが、「このやろう」という思いで苦労したからこそ成功したのだ。

でも米国では、ビル・ゲイツ（ハーバード大学中退）にしてもクレイグ・ベンターにしても、一流大学を出ている。そういう人たちが、「面白そう」という動機で大学や企業から飛び出して起業する。エリートが先頭に立ってリスクに挑戦するし、そうやって新しいものを作る人こそエリートだ、と認める国民性がある。それがアングロサクソンの強さだ。

第一、先進国の中で国立大学がトップなんて国は日本とフランスぐらいだ。次代を担うエリートが国立大学を目指し、官僚になりたがるのは中央集権が強過ぎるからだ。そんな、「お上」をありがたがる国民性で、ベンチャーなんて作れる訳がない。

にもかかわらず今、日本の「リーダー」と言われる人たちが寄ってたかって、「新しい産業を作るために、国がお金を出して下さい」「ベンチャーは国で整備して下さい」と言っている。官僚ベンチャーを作ろうだなんて、ベンチャーの何たるかがわかっている人は決して言わない。ベンチャーはシステムではなくてスピリッツ。やる奴はどんなにハードルがあってもやるものだ。

ただし、今の若い人たちは捨てたものじゃない。ヒエラルキーから飛び出して、ハイリスク・ハイリターンに挑戦しようという人が出ている。バイオの分析ではまだ少ないけれど。そういう人に光を当てて、サクセスストーリーをみんなに知らせることが何よりも大切だ。そうすれば後に続く人が出て来る。

だから私は「出る杭を伸ばせ」と言っている。そういう人がちょっとでも失敗すると、マスコミはすぐに叩きにかかるだろう。失敗しても応援すればいい。その中から産業構造を変えるようなビッグビジネスが出て来る可能性があるところに、ベンチャーの醍醐味はあるのだ。(談)